令和2年度学校教育自己診断について

生徒・保護者・教職員の各データについては、別紙のとおりです。
教職員については、回答提出率が100%（前年度40%弱）となり、改善しました。

【学校生活全般】

「学校へ行くのが楽しい」91.9%〔91.8%〕「子供は楽しいと言っている」84.6%〔82.8%〕と大きな変化はなく、引き続き With コロナにおける学校生活の充実を工夫したい。

【授業】

「学力向上に役立っている」82.4%〔88.6%〕減「子供はわかりやすく楽しいと言っている」54.6%〔53.2%〕微増。各教科の授業時数が減ったため、授業の進度や内容の充実に教員は苦慮し、生徒も理解・定着に苦労している現状がある。次年度は、休業により影響を受けた学習内容の補充も含め、さらなる工夫・改善が必要である。

【キャリア形成支援】

「将来の進路や生き方を考える機会がある」83.4%〔72.3%〕大きくアップした。さらに内容の充実をめざす。保護者「進路指導の適切さ」72.2%〔76.1%〕「情報の伝わり方」58.4%〔69.3%〕について、丁寧な説明や情報の発信の頻度も含め、早急に改善したい。

【生徒会活動等】

生徒「主体的に取り組んでいる」92.3%〔82.7%〕保護者「積極的に参加している」92.8%〔90.7%〕と制限された中でも活発である。

【その他】

「気軽に相談できる先生がいる」44.5%〔43.7%〕「保護者への情報提供の努力」86.6%〔80.9%〕等引き続き向上させる。「SCの周知」54.6%〔49.2%〕さらなる徹底が必要。今年度当初に整備した緊急連絡メール（メルマガ）について、「メルマガの役立ち度」90.2%〔81.8%〕引き続き発信に務めたい。

【学校組織】

教職員「組織の連携」について46.4%〔31.0%〕と15ポイント以上あがったが、まだまだ低い。情報の共有や伝達等、教職員の居場所が点在しているという物理的に不利な点を補い、コミュニケーションを十分にとり、さらに一致して教育活動に取り組めるように、取り組みを続けたい。

※数字はすべて積極的回答。〔 〕内は前年度。